

学校図書館を活用した授業づくり

～知ることの楽しさを味わいながら学びを広げる子どもの育成～

鹿児島市立玉江小学校 教諭 溝江 藤子

1 はじめに

本校は鹿児島市の中心地に位置し、全校児童852人33学級の大規模校である。「新たな時代に、自ら考え判断し、心豊かに創意工夫する子どもの育成」の学校目標の下、読書指導の目標を「読書活動を通して、いろいろな本に親しみながら豊かな心を育て、自ら進んで本を読もうとする意欲を高める。」と設定している。また、「毎月23日親子読書の日」の設定や読み聞かせボランティアによる朝読書の読み聞かせなど、家庭・地域とも連携を図りながら読書活動を推進している。

2 主題について

学習指導要領の改訂を受け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。その際、学校図書館は重要な役割を担っており、その機能を生かした活動や授業の工夫は、子どもたちの資質・能力の育成につながると考える。

そこで、これまで以上に授業において学校図書館を積極的に活用すること、その活用を通して、子どもたちが、知ることの楽しさを味わい（主体的）、学びを広げる（対話的）ことができるようにしたいと考えた。その中で、それぞれの「見方・考え方」がより豊かになり、多様な場で生かされる（深い学び）ようになることをねらいに授業づくりを進めることとした。

3 実践

(1) 年間を見通した学校図書館活用にむけて

① 単元一覧表の作成と活用

各教科・領域等、学年の年間計画を一覧できる「単元一覧表」を作成し、その中で学校図書館及び図書資料をどう位置づけて授業を展開することができるかを視点に検討した。一覧表にすることによって、教科学習において図書資料をどのように活用するのか、その目的は何か、複数の教科等を関連させて合科的に行える単元はないかなど、年間の見通しがもてると同時に、様々な関連が分かりやすくなり、教科等の横断的な学習の充実にもつなげることができた。

② 具体的取組

学期始めの学年会で、一覧表を活用してカリキュラムの検討（単元の入れ替え）を行った。その際、情報活用能力（例：調べ学習の仕方）を視点として、総合的な学習の時間の活動と国語科の活動をつなげたり、実施時期が学級で重ならない方が活用しやすく学習が充実すると考えられる国語科の単元について、学級間で「ずらし」を取り入れたりするなど、授業計画・準備に生かすことができた。

(2) 「調べ学習」入門期を意識した指導の工夫

今年度担当している第3学年は、調べ学習の入門期といえる。特に、国語の学習においては、図書の分類を始め、国語辞典や図鑑の使い方、目次や索引、引用の仕方な

ど、調べ学習の基礎となる内容を多く学習する。今後の調べ学習を支える知識・技能を身に付けることができるように、計画的に学校図書館を活用して具体的で丁寧な指導を行うように努めた。

また、国語科の学習を通して図鑑や科学の読み物に興味をもった子どもたちに、百科事典の使い方を指導した。(総合的な学習の時間) 3年時の段階で、調べ学習で利用する主なレファレンスツールの使い方を知ること、何かに興味をもったときに自ら、学びにつなげることができるようになってほしいと考え、実施した。子どもたちは、国語辞典で学んだその原理を活用してすぐに百科事典も使うことができるようになった。また、気になることがあると自ら百科事典で調べたり、分かったことを友達に伝えたりする姿も見られるようになった。(日常化)

(3) 図書資料を活用した授業実践

① 算数科「表とグラフ」

1学期末に学習した内容の発展として、自分の読書記録を棒グラフに表し、考察する活動を行った。児童が使用する貸し出しカードには、自分が読んだ本の分類番号も合わせて記録するようになっている。国語の学習で図書の分類について学習したことも振り返りながら、分類ごとに冊数を整理し、棒グラフに表した。算数で学んだことを自分の読書生活と結びつけることで、まだ借りたことのない分類番号の本に興味をもち、幅広く読書に親しむきっかけづくりになったり友達との違いに気づき、互いにおすすめの本を紹介する姿も見られたりするなど、2学期の読書活動への意欲につなげることもできた。

② 国語科「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

この単元は、読むことと書くことの複合単元である。そこで「食べ物のひみつブックを作ろう」という単元を貫く言語活動を設定したり、ブックリストを活用して食べ物に関する本の並行読書を行ったりしながら子どもたちの学習意欲の持続・発展を図った。子どもたちは、説明文「すがたをかえる大豆」の読みの学習時から、自らの興味に沿って食べ物の本を読んだり食材について百科事典で調べたりしており、「自分はもう食材を決めたよ。」「早くひみつブックを作りたい。」と意欲をもって書く活動を始めていた。

本単元では、調べる活動の充実のために、市立図書館の「学校図書館支援図書」を活用した。学習期間中、資料を常時教室に設置することができたことも子どもたちの意欲の持続につながったと考える。

4 成果と課題

単元一覧表を作成・活用することを通して、見通しをもって図書館や図書資料を授業に生かすことができた。また、指導のねらいに応じて複数の教科等を関連させたり資料を充実させたりすることによって、子どもの「知りたい」という意欲を「調べる」という行動につなげることができた。

なお、調べ学習における基本的事項は、学習や体験と結びつけながら、繰り返し経験することによって定着すると考える。今後は、学年や教科にかかわらず、必要に応じて子どもたちが活用できるような手引きの作成を検討したい。